

委員意見

No.	【照会事項1】（第4章 17のゴールごとのモニタリングについて）	委員名	
	ご意見	事務局対応案	
1	p.7-p.8「前進している資料の割合」を参考そして算出しパネル化していますが、『指標が変わると変動するため、県内のSDGsの状況を確定するものではないことに留意が必要』と注記しているように、寧ろパネル化が誤解（正しくない認識）を誘導・増長するリスクがあるのではないかと感じました。	SDGsの進捗の状況を共有することを趣旨として、県民にわかりやすく状況を共有するものとしてパネル化しております。ご指摘のとおり、パネル化については、わかりやすい点と誘導する点と両面あることは認識しておりますので、パネル化について、今後も意見を聞きながら検討します。	佐野委員
2	ローカル指標は『沖縄県の地域特性などを補完する指標』として大変有用だと思います。一方、これが設定されていないゴールが複数あり、設定されなかった理由・背景が気になりました。設定にあたっては（p.5から）専門部会の有識者意見などを踏まえた理解しますので、どのような議論が専門部会でなされたのか、簡単にご紹介いただけるとありがたいです。（共通指標で十分なのか、適当なローカル指標が特定できなかったのか、など。）個別の指標ごとでなく全体的な傾向を掴めれば結構です。	今回の報告書では専門部会で指摘があった指標をローカル指標として設定しているため全ゴール対応していません。ローカル指標については、専門部会で有用であると同時に恣意的な指標になるとのご意見がありました。これらの意見を踏まえ、今後ローカル指標の設定の仕方についても検討します。	佐野委員
3	ローカル指標を設定したゴールについては、その設定理由が読み手にとって容易に想像できないものもあるので、各ゴールの説明文において簡単でよいので言及する方が理解しやすいと思いました。例えば、ゴール3のローカル指標「65歳未満の死亡者数（早死）」、ゴール10の「外国人を雇用する事業所数」が、沖縄の地域特性を補完するという観点でなぜ設定されたのか、読み手（特に県外在住の読み手）にはわかりにくいと感じました。また、ゴール5のローカル指標「保育所等入所待機児童数」は、間接的な指標（女性の社会進出等を支える環境・制度整備）のように感じられるかもしれません。	ローカル指標の選定について説明を追記する等、検討します	佐野委員
4	各ゴールの説明文は、進捗状況等を文章で表現した（し直した）ものが殆どであり、どうしてそうなったのか、理由の分析・深掘りに関する記載がないように思いました。説明文では「●●の取組を促進する必要があります。」と記載されていますが、その進捗状況に至った理由の分析がないと（理由を理解しないと）実効性のある取組は行えないのではないのでしょうか。もし、その理由分析が現状、できていないのであれば、その分析自体を取組にする必要がある（そのようにすればよい）と思います。	モニタリング報告書は、県内のSDGsの状況を共有することが趣旨となっており、現時点では進捗状況の説明となっております。今後分析や説明について、検討します。	佐野委員
5	各ゴールの説明文において、「●●に向けて、多様なセクターが取り組む必要があります。」と記載されている箇所が多くあります。読み手にとっては一般化され過ぎていて、何を意味しているのかがわからないように思います。	文言について、分かりやすい表現を検討します。	佐野委員
6	17のゴールごとのモニタリングは、発想は非常に素晴らしい。国内外で議論され難床されているSDGs指標を比較検討の上、比較可能な指標を選出して、全国との比較の上で沖縄県の何が優れていて何が足りないのか、すぐに分かるようになっている。感心しました。全国と比べられることによって、沖縄県で独自の指標が少しでも改善されたからと言って「順調進捗」という安易な評価を防ぎ、より実質的なSDGs達成状況を評価することができるかと思えます。沖縄県は、SDGs未来都市を名乗るからには、17目標のどんなに悪い指標を含めてすべて指標において、最低でも全国並み（全国平均値）が目標値とされることになる、あるいはそれ以上の改善が求められる、ということになります。すでに全国並みの指標については、全国最高レベルを目指すこととなります。このようにして目標値がおのずと定まることもとてもよろしいかと思えます。	ご意見ありがとうございます。	島袋委員
7	ざっと見しかできていないのですが、大きな問題点に見えるところもあります。17ゴールモニタリングにおいて選択され示された指標については、「新・沖縄21世紀ビジョン実施計画」との関係がよく分かりませんが、また、事業担当者が自分の関わる施策・取り組みとの結びつきがすぐには分からない。県庁各事業担当部署が、この評価をみて、自分の関わる施策や担当事業がSDGs目標のどれに関連し、どれほど貢献しているのかあるいはしていないのか、取り組み・担当事業をSDGsの視点から自己評価し再検討し改善することの手助けになることが望まれる。そうすると各担当の自己評価を起点としたPDCAが回っていくことにつながると思えます。	SDGsのモニタリングについては、沖縄県内の状況を報告書としてまとめ、沖縄県SDGs推進本部に報告し、県内の地方自治体、企業・団体など、幅広い関係者に県内のSDGsの状況を共有することで様々な取組につなげていくことを目的としております。当初は「おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリングのみを想定しておりましたが、SDGs専門部会において、12の優先課題ではなく、17のゴール単位で状況を示してほしいとの意見がありました。また、沖縄県SDGs実施指針において、毎年度、SDGs専門部会等によりモニタリングを実施することとなっており、「おきなわSDGsアクションプラン」の指標が毎年度、データが取得出来ないものがあることも踏まえ、17のゴールごとにモニタリング用の毎年度データを取得出来る指標を設定し、整理したところです。	島袋委員

委員意見

No.	【照会事項1】（第4章 17のゴールごとのモニタリングについて）	委員名																					
	ご意見	事務局対応案																					
8	<p>新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（10年総合計画）は、SDGsの記述が多くあり、これを達成していくと明記されているので、素晴らしい。しかし、基本計画をより具体的に実現していく取り組みを具体的に書き記し、具体的な指標や目標値を定めた実施計画については、惜しいことに、SDGsのフォローアップシステム（PDCAマネジメントサイクル）が取り込まれている。なので、実施計画そのものでSDGsの目標のPDCAを回すことができない状態かと思えます。</p>	島袋委員																					
9	<p>具体的な改善策を提案します。実施計画上に記載された指標にSDGsの目標やターゲット国際指標を今から書き加えることはできませんが、モニタリング報告書は追加修正がまだできるので、こちらを実施計画と運動させて修正します。</p> <p>モニタリング報告書案ゴール1の記述の事例 ゴール1は、あらゆる貧困をなくそう、ですが、県基本計画・実施計画上の直接的な該当箇所は、「2心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して」の「(1) 子どもの貧困の解消に向けた総合的な支援の推進」と「(2) 誰もが安心して子育てができる環境づくり、つまり、2-(1)と2-(2)です。運動させるべき実施計画上の指標をとりあげると、 2-(1) 子どもの貧困の解消に向けた総合的な支援の推進（実施計画112頁）</p> <table border="1" data-bbox="175 801 783 965"> <thead> <tr> <th colspan="5">■主要指標（最終アウトカム）の基準値と目標値</th> </tr> <tr> <th>主要指標名</th> <th>基準値</th> <th>R6年度目標値</th> <th>R13年度目標値</th> <th>全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>の現状（参考年）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>沖縄子ども調査による困窮世帯の割合（R3年度）（R元年度）</td> <td>23.2%</td> <td>19.8%</td> <td>16.6%</td> <td>13.5%（※）</td> </tr> </tbody> </table> <p>とあり、※印でまったく同じ調査ではないが参考になる同等類似の調査に基づくものとして全国の現状の少し古い数値があげられている。ここには2-(1)が、SDGsのゴール1に関連するという記述も何も示されていない。少なくとも、R13年(2031年＝現計画の終了年次)の目標値は、16.6%とされている。しかし、これは全国の類似指標13.5%よりかなり甘い目標値であり、かつ、国際指標では2030年までに基準年(2016年)の半減なので、数値目標はさらに低いものとならなければならぬのではないのでしょうか。</p> <p>一方、モニタリング調査報告書案は、9頁のゴール1の指標4項目うち共通指標において、実施計画の上記の指標も、また他の指標も使われていない。例えば、共通指標を一個増やして、上記指標を、モニタリング報告書のゴール指標に組み込んではどうだろうか。このようにして、実施計画上の「主要指標」（最終アウトカム）はさほど多くないので、すべてを洗い出して、「(2) 17ゴールごとの各指標の進捗状況等」の指標の中に組み込む作業を行うということを提案いたします。</p>	■主要指標（最終アウトカム）の基準値と目標値					主要指標名	基準値	R6年度目標値	R13年度目標値	全国	の現状（参考年）					沖縄子ども調査による困窮世帯の割合（R3年度）（R元年度）	23.2%	19.8%	16.6%	13.5%（※）	<p>モニタリング報告書は県内のSDGsの状況を様々な方々に共有するものとして整理しております。「おきなわSDGsアクションプラン」の指標については、実施計画の指標との整合性を取っているものもごさいますが、ご指摘の点については、関係者と共有しながら、引き続き、検討していきたいと考えております。</p>	島袋委員
■主要指標（最終アウトカム）の基準値と目標値																							
主要指標名	基準値	R6年度目標値	R13年度目標値	全国																			
の現状（参考年）																							
沖縄子ども調査による困窮世帯の割合（R3年度）（R元年度）	23.2%	19.8%	16.6%	13.5%（※）																			
10	<p>現在の実施計画上の「主要指標」（最終アウトカム）をとって変えることはできないのですが、増やすことは可能です。SDGsはアウトカム指標が多いのですが、県の実施計画はそもそもアウトカム指標が少なすぎの印象です。また主観指標を主要指標にする場合は客観指標を併設するべきだと思います。したがって、次期中期の実施計画策定時には、SDGsの視点から主要指標（最終アウトカム）を増設すべきであり、かつ、せめて施策展開及び施策レベルにSDGsの目標を明記した方がいいと思います。そうやることで、SDGsを達成していくためのPDCAマネジメントサイクルは、回っていくことになると思います。</p>	ご意見については、関係者に共有させていただきます。	島袋委員																				
11	<p>P12 No. 8の属性ローカル「65歳未満の死亡者数」は総数ですが、人口比率に直した場合の沖縄と全国の比較はできないのでしょうか。つまり、現在の平均寿命、特に高齢者では年齢層の死亡率が高く、平均寿命の男性43位、女性16位ということに繋がっていると思いますが。</p>	ご指摘のローカル指標については、SDGs専門部会からの提案により追加したところです。今後、人口比などによる分析ができないか、今後検討したいと考えております。	瀨辺委員																				
12	<p>P19 ゴール8の表中3番の「一人当たり県民所得」は、R2年度の2,167千円のままですが、R3年度は2,258千円という数字が出ており、全国との差がまだ大きいものの、やや縮まっています。216万円のままの数字で説明を続けるのはどうでしょうか。</p>	R3年度の全国値がまだ公表されていないため、今回はR2年度の数値で設定しております。	瀨辺委員																				
13	<p>国際的な流れを、運動しなくても別添等に添えるか、前段でいれるかで沖縄、日本、国際の比較が可能ではないでしょうか？ 以下、御参照願います。 国連「持続可能な開発目標（SDGs）報告 2023：特別版」</p>	報告書の公表時に別添の参考資料（HPにおいてはリンク等）として、併せて発信できるようにしたいと考えております。	玉城委員																				

委員意見

No.	【照会事項1】（第4章 17のゴールごとのモニタリングについて）		委員名
	ご意見	事務局対応案	
14	<p>興味深く拝読いたしました。進捗度合いをパラメーターで可視化する取り組み等、データに基づいた進捗管理をなされており、全国のお手本となる取り組みだと感じました。様々なご制約の中で報告書を作られていることは承知のうえで、いくつか気になった点についてコメントさせていただきます。</p> <p><全体的な考え方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗評価について、前年度からの動きをもとに評価されておりますが、国連の「The Sustainable Development Goals Report 2023: Special Edition」では「on trackかどうか」でターゲットの進捗を評価しております。データ制約上難しい面もあるかもしれませんが、将来的にご検討いただけませんか。 ・全国との比較を行う理由をご説明いただけませんか（沖縄県独自の課題を把握したいのか。また、比較の結果から何をしたいのかを記載するなど）。 <p>加えて、矢印が進捗評価と同じのため、混同しやすいように思います。色分け/形分け（△▼など）等ご検討の余地があると思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して「引き続き取り組む」という表現が散見されますが、進捗が遅れているものに対しては「取り組みの加速」などもう一歩踏み込んだ表現が必要ではないでしょうか。 ・同様に、「取り組む必要がある」（第三者目線）から、「取り組む」（主体的）な表現にするのはいかがでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「on track」の評価に関しては、研究させていただきながら、今後、検討させていただきます。 ・SDGs専門部会において、17のゴールの状況をわかりやすく示すよう要望があり整理しております。内閣府の指標リストは非常に多くの項目があるため、地域課題の視点を踏まえながら絞り込みを行いました。趣旨としては、他の都道府県の状況と比較できるようにすることとしておりますが、専門部会の意見を踏まえ、全国比較できない指標も補完的に加えています。専門部会では、地域課題を踏まえた補完的な指標の設定について、必要性や提案の意見を全体として偏ったモニタリングにならないかといった意見等を踏まえ整理しています。 ・全国値との比較の指標に関する表記（矢印）については検討させていただきます。 ・今後の取組の記載については、来年度の報告書作成の際、関係者との調整において留意しながら対応していきたく考えています。 	和田委員
15	<p><表記></p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.9 4章に「属性」の説明がありませんでしたので、再掲いただけると幸いです。 ・p10 ゴール2の説明のサブタイトルは「飢餓を終わらせ、食料安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」ではないでしょうか（脱字）。 ・p14 1段落目冒頭「室の高い」→「質の高い」 ・p17 念のため確認させてください。P17における成果は下水処理網の拡大によるものなのか、人口移動（過疎地の人口減少）によるものなのか気になりました。 ・p25 不勉強で恐縮ですが、2段落の人口減少に対するDX取り組みの推進のつながりを説明していただきたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「属性」の再掲については対応します。 ・ゴール2のサブタイトル、誤字は修正しました。 ・ゴール6の結果については、下水道等の普及が要因として大きいと考えています。 ・人口減少に関するDXの推進の関連については、リモートワークなどによる移住・定住の促進に加え、新たな産業の創出や労働生産性の向上による転出の抑制なども想定されています。 	和田委員

No.	【照会事項2】「第4章2 おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリング	委員名	
	ご意見	事務局対応案	
1	この「『おきなわSDGsアクションプラン』のモニタリング」の方が、「17のゴールごとのモニタリング」よりも沖縄の状況、言い換えると、目指す姿と今の姿を表しているように感じられました。どちらが大事、ということではありませんが（前者もモニタリングとしては重要）、こちらを強調する、言い換えると、前面に打ち出した方が、県としての取組姿勢が見える、アピールできるように思いました。これについては、他の委員のご意見も伺いたいです。	SDGs専門部会の議論を踏まえると12の優先課題に基づく「おきなわSDGsアクションプラン」ではなく、「17のゴールごとの評価を示してほしいとの意見もありましたが、委員のご指摘のとおり、沖縄の取組姿勢を示すことの重要性も踏まえつつ、両方を記載することといたしました。	佐野委員
2	「進捗（対基準値）」を矢印の向きで表していますが、ややトリッキーだと感じました。「達成度（対目標値）」と見比べてまだ達成にほど遠くても、あるいはわずかな進展でも数値が目標値に向けて上がる（あるいは下がる）だけで、上向きの矢印になっています。基準値からの進捗のパーセンテージの幅をもたせて、3つの矢印（上向き、横ばい、後退）を割り振った方が、ビジュアル化のメリットと的確な実態把握の両方を実現できるのではないかと思います。	SDGs専門部会において、昨年度から進捗をビジュアル的に解りやすく示すよう指摘があり、このような表記にしております。判定基準において一定の幅を持たせる必要性については、今後、検討させていただきますと考えております。	佐野委員
3	ここについては、分からないところが多くあります。まず、指標の選出と設定ですが、一つの「優先課題」につき、より具体的な取り組みが少なくとも数個から10個程度、掲載されていて、それにつき、指標が一つまたは複数設定されています。なので、指標は「1、17ゴールごとのモニタリング」において用いられている指標よりも細かいものが多い、ということは理解できるのですが、可能な限り全国との比較可能な指標、17ゴールの指標を選定した時と同じような発想の元に、指標を設定し、全国との比較を常に意識できるような表現の仕方が望まれるのでは、と思いません。		鳥袋委員
4	なぜならば、「目標値の設定」（最終アウトカム）が、全国並みかそれ以上と、最低限の目標を設定できるからです。モニタリング報告書案の「優先課題」の現在の目標値は、どのように決定されたのか、よく分かりませんが、すべて全国との比較を想定していない「ローカル指標」とされているように見えます。したがって、報告書案「1、17ゴールごとのモニタリング」とは異なり、全国との比較もできなければ、目標値を全国並みと設定することも想定されていないようです。17ゴールと同じ指標を使わなくても、同じような考え方で指標を新たに選出して、せめて半分ぐらいはアクションプランの評価指標に入れ込んでほしいのではと思います。そうすることによって、1の17ゴールモニタリングの達成状況評価と報告書案「2、おきなわSDGsアクションプラン」の達成状況評価との関連性も分かりやすいものとなります。	全国比較可能な指標、目標設定については、「おきなわSDGsアクションプラン」の策定の際に関係者とも議論を行いました。検討に比較的多大な時間を要することから、現行の実施計画や個別計画を踏まえながら整理を行い、SDGs専門部会（5部会）、SDGsアドバイザリーボード会議、沖縄県SDGs推進本部にかけて決定したところです。今回は「おきなわSDGsアクションプラン」の最初の評価となりますが、数回の評価を踏まえ、見直しを検討することとなりますので、ご意見を踏まえて検討したいと考えております。なお、基本計画に係るご意見につきましては、関係者に共有いたします。	鳥袋委員
5	上記2との絡みですが、目標値（最終アウトプットに相当）の設定の根拠がよく分かりません。見落とししているのかもしれませんが、説明がないように思えます。目標値は、その課題について、最終的にどのような状態にまで改善するか、ということであり、どれだけの予算と労力を投入するか、ということと直結します。なので最終的には民主主義的な公開の審議と決定に委ねることになります。多くの自治体が基本計画の指標と数値目標まで議会の議決事項としているのは、そのためです。しかし、沖縄県では、指標や数値目標を備えた実施計画の策定は、議会の議決対象にもなっていないければ、県民を募った審議会に付されることもありません。行政のみで決定されるため、その目標値も行政単独の都合で設定されている可能性をぬぐえないのですが、このアクションプランの目標値がどのように決定されたのか、そしてそれはなぜ妥当だと言えるのか、それが良く分からないので説明いただければと思います。		鳥袋委員
6	条例もないので議会の議決事項にするわけにもいかず、急に審議会を作って審議する時間的余裕もないので、その場合もっとも、地域社会や県民が納得する目標値は、全国平均より悪い指標については全国並みへ、平均より良いものはより上位へ、という目標の設定しかないのかな、と考えます。今回の報告書案において、おきなわSDGsアクションプランの評価が、17ゴールの評価と比べて、極めて良好なのは、目標値の設定が相当に低く抑えられているからではないでしょうか。それでは、12の優先課題はすべて良好に進展しているにも関わらず、17ゴールの目標達成は困難、という状況を生み出してしまいかねません。12の優先課題を実現することが目的ではなく、最終的には17のゴールすべてが改善されていることが目標なので、目標値の再検討が必要かと思えます。	全体的な概要を示すためにパネル化（図化）したものは、17のゴールはよりアウトカムの指標が多く、おきなわSDGsアクションプランの指標は活動指標に近い指標があるため、基準年からの進捗状況がより前進しているように見えるのではないかと推測しております。目標値に対する達成度は各12の優先課題ごとの表にまとめております。達成度の評価については、目標年が指標毎に異なることが課題となっており、今後、目標設定のあり方についても検討していきたいと考えております。	鳥袋委員
7	具体的な事例をあげ、具体的な提案をする時間がありません。引き続き考えていきますが、ここまで非常に労力が必要であった作業をしていただき、緻密なモニタリング報告書案をせっかく作っていただいたので、ほんとうに大いなる前進だと思います。あと一歩、SDGs 17ゴールと169目標の達成が少しでも改善されるように、県庁組織全体そして県民がSDGsの目標を共有して、自らPDCAを回していけるようなガバナンス刷新を図れるよう、もう少しだけ工夫すればそれも実現可能かと思えます。		鳥袋委員
8	P35 表中3番目「様々な国の～」の指標は、在留外国人数となっていますが、住みやすい地域の形成を実現するの指標が人数がいいのか、少し疑問です。目標値がR13年度に35,899人とあり、外国人が増えれば済みやすいという捉え方でいいのか。勿論、そのような面もありますが…。	在留外国数については、外国人が安心して生活及び滞在ができる環境づくりの成果指標として「実施計画」においてもお設定されているものですが、ご指摘を踏まえ、今後の見直しを含め検討します。	洲辺委員

委員意見

No.	【照会事項2】「第4章2 おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリング		委員名
	ご意見	事務局対応案	
9	<p>・達成度合いを算出してくださっており、大変分かりやすいと思いました。今後、各優先課題の総合達成度も加重平均等で算出できるとさらにわかりやすいと思います。</p>	<p>・今後、検討させていただきます。</p>	和田委員
10	<p>・定性的な指標に関しても、本文で触れる等で、どこかで進捗（県の認識）を共有いただけないでしょうか。</p>	<p>・来年度の報告書とりまとめの際、関係者との調整の中で留意して対応したいと考えています。</p>	和田委員
11	<p>・p51 No.1「離島△70人」→「離島マイナス70人」という理解でよろしいでしょうか。（表記ゆれ？）。本文に記載してくださっておりますが、過疎地に132人も流入したさらに詳しい背景が気になりました（県内移動か県外移動か出せないでしょうか）。</p>	<p>・マイナスという認識で結構です。県外移住か県内移住かの統計データの取得が難しいです。</p>	和田委員

委員意見

No.	【照会事項3】第5章 沖縄県内のSDGs活動状況		委員名
	ご意見	事務局対応案	
1	非常によい取組が、さまざまに行われていることがわかり、素晴らしいと思いました。	ご意見ありがとうございます。	佐野委員
2	プラットフォーム向けの活動であれば当該ページの部分で間違いないと思うが、沖縄県や市町村が実施するイベント等、SDGsに因んだイベントや事業が数多く存在しており、その可視化を今後はどのようにできるの考えられないでしょうか？ 例えば、那覇市、2023年11月開催「那覇の未来へ SDGs シンポ」女性財団での事業は、SDGsとジェンダー平等の講座を何度か担当してきました。	プラットフォームの活動は、事務局で取材した活動を中心に掲載しております。その他の活動について、どのように可視化していくか検討します。	玉城委員
3	感想なので意見ではありませんが、楽しそうな写真がたくさん掲載されているのが良いと思いました。	ご意見ありがとうございます。	和田委員

委員意見

No.	【照会事項4】自由ご意見等		委員名
	ご意見	事務局対応案	
1	現時点では特にありません。当日、他の委員の皆様のご意見を伺い、何かあれば意見を述べたいと思います。	引き続き、お願い致します。	佐野委員
2	報告書案作成ご苦労様でした。非常に質の高い報告書だったため、読むことに時間がかかり、十分に読み取らずに意見を述べさせていただきました。的外れな意見になっている場合はご寛容下さい。	報告書のボリュームが多いことも課題となっております。さております。 引き続き、検討してきたいと考えと選ります。	島袋委員
3	すみません、気になったところを書かせて頂きましたが、意見というより質問です。 よろしく願います。	引き続き、お願い致します。	湊辺委員
4	膨大なとりまとめ、心より感謝申し上げます。イラスト等が分かりやすく、社会課題を解決、SDGsを推進する意味でもすごく重要なまとめになっていると思います。 モニタリング報告を学校現場で活用し、ここからアクションに結び付けることもできると思います。次年度試してみたいと思います。	引き続き、お願い致します。	玉城委員
5	・不勉強で恐縮ですが、この報告書の「作成者」はどなたにあたるのでしょうか。文責の主体を明記すべきではないでしょうか。また、その責任者が総括のようなコメントを書くのはいかがでしょうか。	・作成者は沖縄県になると認識しています。 ・総括のコメントは予定しておりませんが、今後検討させていただきます。	和田委員
6	・こちら不勉強で恐縮ですが、モニタリング結果を踏まえた見直しは、だれがどこに（アクションプランなのか、個別事業なのか など）どのように反映されるのかをご教示いただきたいです。（モニタリングスキームをもう少し詳しく具体的に書いていただけるとありがたいです）	・モニタリング結果を踏まえた見直しについては、SDGs専門部会でも議論がありました。多様な主体が皆でSDGsを推進することを目的に「実施指針」や「アクションプラン」をまとめた経緯があり、沖縄県庁を含め、各主体において取組を見直す資料として活用いただくことを想定しています。 アクションプランは一定機関の実施と評価の積み重ねを踏まえ、見直しを行いたいと考えております。	和田委員

7	<p>・SDGsのゴールに関して、一部で遅れは見られますが、全般的に着実に取り組まれている様子が理解できました。また、アクションプランや活動状況の報告についても、多様な取り組みの様子がわかりました。</p>	<p>・ご意見ありがとうございます。</p>	北村委員
8	<p>・あえてコメントするとすれば、沖縄県内での活動は盛んに行われていると思うのですが、県外、さらには海外との繋がりをさらに持てると、より活動の輪が広がり、SDGsへの貢献も高まることが期待できるかと思っています。</p>	<p>・今後、沖縄県内での活動のみならず、県外や海外へも活動の輪が繋がるような取組を検討して参ります。</p>	北村委員